

## 市の基金（預金）

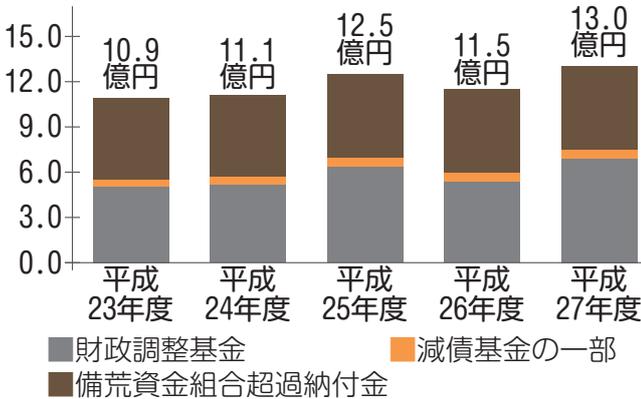
### 自由に使える基金は1.5億円増

市は、特定の事業に使用したり、財源の調整を図るため、基金（預金）を積み立てしています。

このうち、万が一の備えとして保有している基金などは、財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類で、市の台所事情が苦しいときなどに自由に使うことができる預金に当たります。

これらの平成27年度末残高は、合計で13.0億円となり、前年度末の残高に比べて1.5億円増加しました。今後も安定的な財政運営を図るため、基金残高の確保に努めます。

### 基金残高の推移



## 市の借金

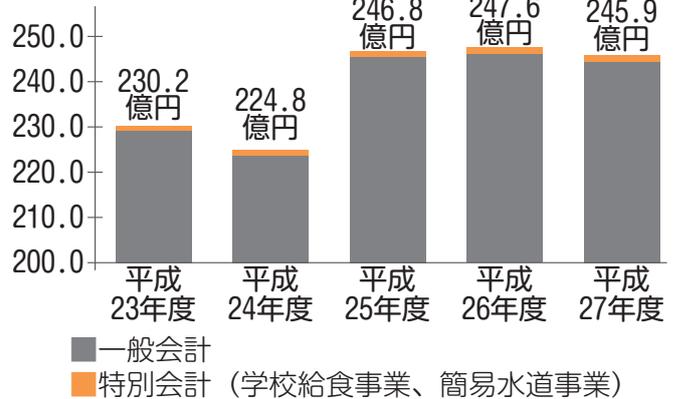
### 残高・返済額ともに減

市は、道路や公共施設など、将来にわたって利用される大規模な施設を整備するときに、国や銀行から長期間で返済するお金を借り入れており、これらは市の借金に当たります。

市の借金残高は、前年度に比べ1.7億円減少し、また、返済額（公債費）についても、ごみ処理施設の整備のために借り入れたお金の返済を終えたことなどから、前年度に比べ減少しました。

なお、一般会計における返済額（公債費）は26.3億円となり、支出全体に占める割合は13.2%で、前年度比で1.0%の減少となりました。

### 借金残高の推移



## これからの市の台所事情

### 平成28年度予算では7億円の財源不足

平成28年度の一般会計当初予算では、210・1億円の支出に対して、203・1億円の収入しか見込めず、7億円の財源不足が生じました。

この財源不足については、その全額を基金など（預金）の取り崩しで対応する予定であるため、今後、財政が好転せず、財源不足が解消されない場合には、平成28年度末の基金残高は6.0億円まで減少することとなります。

そのような事態を避けるため、平成28年度の財政運営にあたっては、適切に収入を確保することはもちろん

ん、不要な支出がないかこれまで以上にチェックを重ねるなど、限られた財源の有効活用を図ります。

今後についても、高齢化の進展などによる社会保障費の増加に加え、小・中学校施設の耐震化や改修、老朽化した公共施設の整備、インフラの長寿命化など、さまざまな事業が控えており、これらには多くのお金が必要となります。

また、市民の皆さんから納入していただく税金は、人口の減少が進んでいることから、今後大きく増加することは見込めず、国から交付される地方交付税についても、国の財政状況によっては大きく減少する可能性もあり、これらの影響により、市を取り巻く環境はいつそう厳しさを増すことが予想されます。

そうした中であって、市民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供していくため、事業の効率性を常に検証し改善していくとともに、社会情勢や時代の変化などにより不要となったサービスの見直しを図るほか、必要性の高い大型事業に順次取り組むなど、計画的で健全な財政運営が図られるよう努めます。

